

秋田・佐竹北家 21代当主

佐竹敬久(65) 秋田県知事

「いまだに『殿』と呼ばれます」

佐竹家が常陸(茨城県)

を領地としていたころ、宗家が「東西南北」の分家を創設しました。私は佐竹北家の21代当主です。出羽(秋田・山形県)に移封後は、

角館(秋田県仙北市)を治めました。9月に地元を祭りがあつたのですが、必ず帰つて「御座所」に座り、曳山の上覧を受けます。

東北大を卒業して東京で仕事をしていました。ところが、この祭りなど跡継ぎが地元にはないと困ると、1年足らずで祖父により秋田に引き戻されました。県庁入りし、秋田市長を経て

2009年から秋田県知事を務めています。地元に戻ると「殿」や、昔から知っている人からは「若さん」と言われることがあります。佐竹家の出身である茨城県常陸太田市とは今も強いつながりがあります。同市長さんと観光団が、8月に秋田市内で行われる「竿灯祭り」に訪れてくれます。

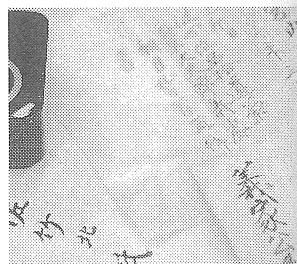
また常陸太田市出身の自民党の梶山弘志国交副大臣が選挙応援に来てくれたり、同市近くの出身の、民主党の大島章宏幹事長が国交相のとき、高速道路の関係で陳情に行ったら「実はうち

は佐竹家の家臣でした」という話をされていました。

たまたま宗家の菩提寺である天徳寺(秋田市)に、宗家と四家が集まることがあります。今でも宗家、四家が座る場所や使う茶碗などはすべて決められています。思わぬ役目が舞い込んでくることもあります。1998年に角館で行われた山口・萩市長と、福島・会津若松市長が出席したシンポジウムに、仲介役のような立場で出ました。

うちの藩は戊辰戦争で奥羽越列藩同盟から離脱し官軍として戦い、角館で攻防戦が行われたことも理由だったと思います。当日、お二人が並んで座ることになっていましたが、なんとなく微妙な空気が流れ、私に間に座りました。(笑い)

これは初めてお見せする



源義家の采配の一部を包んだ和紙や家系図



佐竹敬久氏

のですが、源義家公が所持した采配の一部である馬の毛を、和紙で包んだものです。角館の自宅にある、佐竹一族の氏神である八幡神社を掃除していたら、和紙が入った箱が見つかりました。宗家の3代藩主義処公が、1691年に「八幡太郎義家之探摩也」として奉納したようです。

30年ほど前に秋田県立博物館で調べてもらったところ、1千年近く前のものにも違いがないとのことでした。

佐竹家は出羽に移封後、開墾に力を入れ、殖産興業や芸術に熱心に取り組ましました。その基盤が今の秋田にたぶんに残っています。

国定忠治 弟の玄孫

長岡富男(89) 酪農家

「位牌をお守りに戦死免れた」

うちの先祖さまは、国定忠治(本名・長岡忠次郎)について、ほとんど話して

こなかったと思います。わしも聞いてないから、忠治のことは本などで初め



後年頼朝につながる河内源氏(1039~1106)の弟、源義家(1106)の常陸関ヶ原に徳川羽20万石を主とし、

後年頼朝につながる河内源氏(1039~1106)の弟、源義家(1106)の常陸関ヶ原に徳川羽20万石を主とし、